



# 金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習(Delta Wall V)について

## 金融分野のサイバーセキュリティを巡る状況

- 資金移動業者の決済サービスを通じた不正出金等のインシデントが、複数の金融機関で発生
- また、新型コロナウイルス感染症に便乗したサイバー攻撃やテレワーク環境を狙ったサイバー攻撃が発生している状況
- こうしたサイバー攻撃の脅威は、金融システムの安定に影響を及ぼしかねない大きなリスクとなっており、金融業界全体のインシデント対応能力の更なる向上が不可欠

## これまでの演習の概要

- ✓ 過去4回演習を実施。2016年度は77先・延べ約900人、2017年度は101先・延べ約1,400人、2018年度は105先・延べ約1,400人、2019年度は121先・延べ約2,000人が参加
- ✓ 参加金融機関の多くが規程類の見直しを実施・予定しているほか、社内及び外部組織との情報連携の強化に関する対応を実施・予定しており、本演習を通じて対応態勢の改善が図られている。

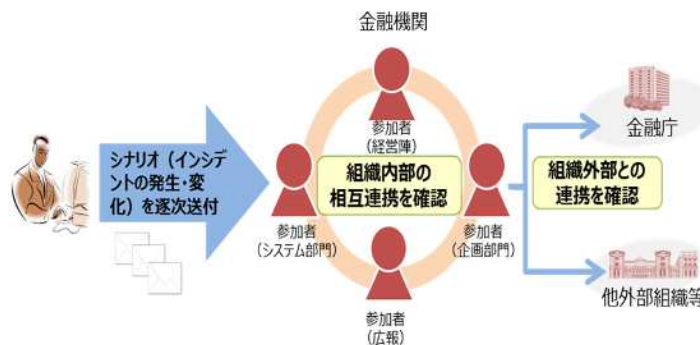
## 金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習(Delta Wall V)

- 2020年10月中旬、**金融庁主催による5回目の「金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習」(Delta Wall V(注))を実施し、約110先が参加。**最近の不正出金等においても重要性が認められた、**インシデント発生時の顧客対応や部門間及び組織外部との連携の実効性を確認し、業界全体のインシデント対応能力の底上げを図る。** (注)Delta Wall: サイバーセキュリティ対策のカギとなる「自助」、「共助」、「公助」の3つの視点(Delta) + 防御(Wall)
- 昨年実施した演習の結果を踏まえ、銀行等については**今回新たに「インシデント対応能力のより一層の高度化を図ること」を目的に、社内でのディスカッションを通じてインシデント対応における社内エスカレーションから経営層の意思決定までの実効性を検証する演習**を実施
- テレワーク環境下でのインシデント対応能力の向上を図るため、**参加金融機関は実際のテレワーク環境下で演習に参加**

## 演習の特徴

- ✓ インシデント発生時における金融機関内外の情報連携に係る対応体制や手順の確認を目的とした演習
- ✓ 経営層や多くの関係部署(システム部門、広報、企画部門等)が参加できるよう、**自職場参加方式**で実施
- ✓ 民間の**専門家の知見や攻撃の実例分析等を参考**にしつつ、金融機関が陥りやすい弱点が浮き彫りとなり、**参加者が「気づき」を得る**ことができる内容
- ✓ 参加金融機関がPDCAサイクルを回しつつ、対応能力の向上を図れるよう、具体的な改善策や優良事例を示すなど、**事後評価に力点**
- ✓ 本演習の結果は、参加金融機関以外にも**業界全体にフィードバック**

## 演習スキーム



## 【演習シナリオの概要】

### 銀行等

(ブラインド方式のため非開示)

### 信金・信組等

- ✓ ホームページ異常による顧客影響が発生
- ✓ 社内端末のマルウェア感染とその拡大

### 証券・FX・生損保・資金移動業者・監査法人等

- ✓ 顧客情報の漏えいが発生
- ✓ 外部からのマルウェア侵入・社内感染

### 暗号資産交換業者

- ✓ 顧客資産の流出
- ✓ 社内システムへの不正侵入・外部への不正通信